

# 17 歯周病の特徴と指数

## 学習のポイント

歯周病の、疾患としての特徴を理解する。歯周病は生活習慣病の1つであり、罹患率は55～64歳の年齢層でピークに達する。よって、それ以前での予防や根本的な治療が必要となる。歯周病の疫学研究の目的は、疾患発症に関係する要因または直接の原因を明らかにし、また病因が解明されている疾患の治療の必要性を評価することである。歯周病の疫学研究では、疾患の病態や進行度を各指数を用いて評価し、得られた結果の経時的推移などを解析し、予防や治療計画に反映させている。出題基準にある各指数の特徴を学習する。

## 本項目のポイント

- 1 成人性歯周炎(慢性歯周炎)は環境的な要因が強いが、早期発症型歯周炎は先天的要因が関与するようになる。
- 2 歯周病に関する指数は、それらのデータを的確に記録するための手法の1つで、簡単に利用しやすく、短時間で診査でき、それが臨床所見と客観的に一致し、再現性が高く、分析性があり、数量的に的確に表現できることが求められる。
- 3 指数は、口腔清掃度を表す指数、歯肉の炎症を表す指数、歯周炎の病態、そして治療の必要度を表す指数に分けられる。
- 4 PII と GI は、プラークの付着状態の変化と、歯肉炎の発症または消退との関連の研究に使用された指数である。

ここを  
チェック!!

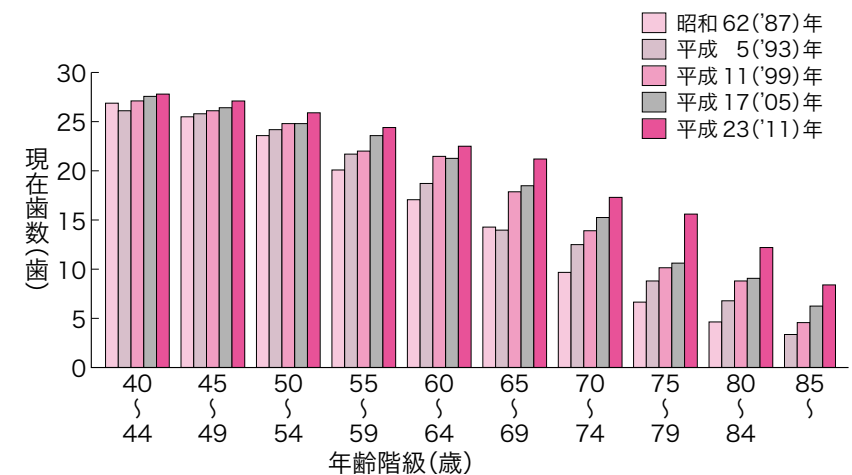
1960年代、PII と GI を用いた、歯科学学生に協力を得て行われた実験的歯肉炎の研究によって、口腔清掃停止によるプラーク付着の増加と歯肉炎の発症が確認された。さらにプラーク中細菌叢の嫌気性菌やスピロヘータ主体の細菌叢への変化が確認された。またプラーク除去による歯肉炎の改善から、プラーク除去の重要性が明確になったのもこのころである。わずか50年前(1965年)の出来事である。

PCRのチャートから、どの部位に何を使用してプラークコントロールを行うべきかを判断する。歯間部であればフロスや歯間ブラシ、最後方臼歯の遠心面であればシングルタフトブラシやエンドタフトブラシなどが有効である。

## 1 生活習慣病

|     |   |
|-----|---|
| 食生活 | インスリン非依存性糖尿病、肥満、脂質異常症(家族性のものを除く)、高尿酸血症、循環器病(先天性のものを除く)、大腸がん(家族性のものを除く)、 <b>歯周病</b> など |
| 運動  | インスリン非依存性糖尿病、肥満、脂質異常症(家族性のものを除く)、高血圧症など   |
| 喫煙  | 肺扁平上皮がん、循環器病(先天性のものを除く)、慢性気管支炎、肺気腫、 <b>歯周病</b> など                                     |
| 飲酒  | アルコール性肝疾患など   |

## 2 日本人の1人平均現在歯数と20歯以上を有する人の割合の推移



20 歯以上を有する人の割合

単位%

| 調査年        | 年齢階級(歳) |       |       |       |       |       |       |       |       |      |
|------------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
|            | 40～44   | 45～49 | 50～54 | 55～59 | 60～64 | 65～69 | 70～74 | 75～79 | 80～84 | 85～  |
| 昭和62('87)年 | 91.8    | 80.9  | 72.6  | 54.9  | 40.1  | 26.8  | 15.2  | 9.4   | (7.0) | (—)  |
| 平成5('93)年  | 92.9    | 88.1  | 77.9  | 67.5  | 49.9  | 31.4  | 25.5  | 10    | 11.7  | 2.8  |
| 平成11('99)年 | 97.1    | 90    | 84.3  | 74.6  | 64.9  | 48.8  | 31.9  | 17.5  | 13    | 4.5  |
| 平成17('05)年 | 98      | 95    | 88.9  | 82.3  | 70.3  | 57.1  | 42.4  | 27.1  | 21.1  | 8.3  |
| 平成23('11)年 | 98.7    | 97.1  | 93.0  | 85.7  | 78.4  | 69.6  | 52.3  | 47.6  | 28.9  | 17.0 |

注)昭和62年は、80歳以上でひとつの年齢階級としている

8020(80歳で20本以上の歯を保つ)の達成者は38.3%、80歳で保たれている歯は約13.9本である

(平成23年歯科疾患実態調査)